

第111回 記者懇談会実施概要

- 1 日時 平成28年9月14日(水) 15:00~17:00
- 2 場所 関西大学千里山キャンパス 100周年記念会館 第2会議室
- 3 内容

(1) 研究発表・質疑応答(15:00~16:00)

- ・高橋 秀彰 外国語学部教授
発表テーマ「ヨーロッパの多言語主義に見る光と影」
- ・石川 敏之 環境都市工学部准教授
発表テーマ「損傷した鋼橋の簡易補修に関する研究」

(2) 学内状況説明・情報交換(16:00~16:50)

- ① 第36回「地方の時代」映像祭2016の開催について 資料1
- ② 梅田キャンパス「KANDAI Me RISE (かんだいみらいず)」の竣工について 資料2
- ③ イノベーション創生センター竣工記念シンポジウムの開催について 資料3
- ④ 創立130周年記念事業特別記念講演会「食と健康」の開催について 資料4
- ⑤ 関西大学博物館・大阪歴史博物館共催
関西大学創立130周年記念展示会「関西大学のちから」の開催について 資料5
- ⑥ 社会安全学部連続セミナー(大阪)の開催について 資料6
- ⑦ 3年次生父母・保護者対象 就職説明懇談会の開催について 資料7
- ⑧ 関大生の活躍について 資料8

(3) 楠見晴重学長 挨拶(16:50~17:00)

4 大学側出席者

楠見晴重学長、西村枝美学長補佐、
高橋秀彰外国語学部教授、石川敏之環境都市工学部准教授、
市村元「地方の時代」映像祭プロデューサー、松並久典総合企画室長、
依藤康正広報課長、宮武明生学長課長 他

5 参考資料

- (1) 関西大学ニューズレター「Reed」No. 46
- (2) 関西大学おおさか文化セミナー【後期】 チラシ
- (3) 関西大学経済・政治研究所 第217回産業セミナー チラシ
- (4) 行事予定表(9月~10月)

以上

【次回(第112回)記者懇談会開催予定】

日時:平成28年10月中旬~下旬 15:00~17:00
場所:千里山キャンパス 100周年記念会館 第2会議室

ヨーロッパの多言語主義に見る光と影

高橋秀彰

【概要】

ヨーロッパでは国家の枠を超えた共同体が構築され、平和で民主的な社会を作ってきた。そこでは相互理解に欠かすことができない言語は特に重要で、加盟国の公用語をすべて平等に共同体の公用語とするという、世界的に稀有な言語政策は興味深い。また、ヨーロッパ市民は母語以外に 2 言語を習得するよう奨励され、「複言語主義」(plurilingualism) の理念のもとで多くの取り組みが行われている。共同体の連帯感を強め、ヨーロッパ市民としてのアイデンティティーを確立するためには、誰もが互いの言語文化を尊重し、学び合うという姿勢が欠かせないためである。しかしながら、外国語学習に対する態度を見てみると、国による温度差が大きく、母語プラス 2 言語の理念を実現できている国は限られている。外国語教育に熱心な国は、複言語主義という崇高な理念を追求しているというよりは、むしろその必要に迫られているように思われる。

本日はヨーロッパの複言語主義を概観し、特に高い複言語能力を誇るルクセンブルクとスイスにおける状況を中心に、多言語国の光と影に迫りたい。両国ともに小国ながら複数の言語を公用語とし、外国語教育には国家の存亡をかけて取り組んでいる。そこでは国家のアイデンティティー、移民、外国語教育の負担など、多くの問題に直面しながらも、複言語主義の維持向上に挑んでいる姿が浮かび上がってくる。日本においては、複言語主義とは逆の英語主義へと国を挙げて邁進している感があるが、果たしてそうした動きが国益に適うものなのだろうか。ヨーロッパの事例は日本にとっても示唆に富むといえよう。

【プロフィール】

関西大学外国語学部教授。専門は社会言語学、言語政策論。

デュースブルク大学（ドイツ）Dr. phil.

著書は『ドイツ語圏の言語政策—ヨーロッパの多言語主義と英語普及のはざまで』、*Die richtige Aussprache des Deutschen in Detschland, Österreich und der Schweiz nach Maßgabe der kodifizierten Normen* など。

損傷した鋼橋の簡易補修に関する研究

環境都市工学部 准教授 石川敏之

【概要】

現在、鋼道路橋は 100 年利用できるように設計が行われている。鋼橋の耐久性を損なう主要因は、疲労き裂の発生や腐食損傷であるが、それらの損傷はこれまでも多数報告されており、疲労損傷や腐食損傷に対して鋼橋の耐久性の確保が課題となっている。

鋼橋に発生した疲労き裂に対しては、新たに鋼板を高力ボルトで接合する補修が多く行われているが、一般に大掛かりな工事となる。無数に発生している疲労き裂へ、鋼板を接合する対策を行うには、費用や時間を費やさなければならないため、実際には、小さなき裂は経過観察されている場合が多い。そこで、疲労き裂を簡易に補修できる技術として、疲労き裂の近傍を叩いて、き裂表面を閉口させてき裂の進展を遅延あるいは停止させる工法を開発してきた。これまでの研究成果から、疲労き裂の進展を遅延させる効果や、比較的小さなき裂に対しては、疲労き裂の進展を完全に停止出来ることを確認している。

他方、鋼橋に発生した腐食損傷に対しても、腐食部を覆うように鋼板を高力ボルトで接合して補修されることが多い。鋼橋では、腐食損傷が非常に多く発生しているため、簡易な補修法が望まれており、短期間で簡易に施工できる当て板接着補修に期待が寄せられている。しかし、当て板接着補修では、当て板の脆性的なはく離やその耐久性が懸念されている。そこで、当て板接着補修に機械的な接合としてスタッドボルト接合を併用して、脆性的なはく離を防止する工法を開発している。これまでの研究成果から、接着接合とスタッドボルト接合の併用によって、当て板の脆性的なはく離が防止できることを明らかにしている。

【プロフィール】

1973 年兵庫県生まれ。1996 年 3 月近畿大学理工学部土木工学科卒業、1998 年 3 月大阪大学大学院工学研究科土木工学専攻修士課程修了、1998 年 4 月～2002 年 9 月駒井鉄工(株)勤務。2002 年 10 月大阪大学大学院工学研究科土木工学専攻博士後期課程進学、2005 年 9 月同課程修了し大阪大学より博士(工学)を授与。2005 年 10 月～2007 年 7 月大阪大学大学院工学研究科特任研究員、2007 年 8 月～2010 年 3 月名古屋大学大学院環境学研究科助教、2010 年 4 月～2015 年 3 月京都大学大学院都市社会工学専攻助教、2015 年 4 月より現職。現在、国土交通省近畿地方整備局橋梁ドクター、阪神高速道路構造技術委員会委員、災害科学研究所「鋼鉄道橋の長寿命化に関する調査・検討委員会」委員などを務めている。